

いわき市少年補導員制度発足60周年記念事業

昭和39年に、少年補導員の配置について定めた『平市少年センター条例（昭和41年に市条例となる）』が制定され、市の少年補導員制度が発足しました。制度発足60周年となる今年度は、5月31日に「いわき市少年補導員制度発足60周年記念事業」を実施いたしました。

記念講演会では、浜通り少年サポートセンター長の柳橋宏美氏に「非行少年の現状や近年の補導のあり方」と題し、市内における補導活動の実態をお話いただき、参加した補導員は熱心に聞き入っていました。

交流会では、補導員相互の情報や意見の交換により、補導員同士の更なる連帯感が生まれました。



【記念講演：浜通り少年サポートセンター長 柳橋 宏美氏】



【柳橋氏の話に熱心に聴講する補導員の様子】

市少年補導員制度発足60周年記念事業 教育長挨拶

いわき市教育委員会 教育長 服部 樹理



本日、いわき市少年補導員制度発足60周年記念事業の開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。皆様には、日ごろより、街頭補導活動を通して青少年の非行防止や安全確保に御尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

昭和39年の少年補導員制度発足以来、補導活動は、青少年の健全育成に極めて重要な役割を果たして参りました。そして、そのあり方を時代の潮流に応じ見直しながら、60年たった現在においても、その活動は地域の子どもたちの健全な育成を推進するための一翼を担い続けております。

近年、子どもたちを取り巻く環境は時代とともに大きく変化しており、街頭補導活動における、飲酒や喫煙などの行為は、ほぼ見られなくなった一方、インターネット・SNSの利用が拡大し、青少年が意図せず有害情報に触れたり、大人の目が届かない場所で犯罪やいじめ等のトラブルに巻き込まれるケースが年々増加しております。

このような中、子どもたちが心身ともに健やかで、たくましく思いやりに溢れる人間として成長していくためには、地域の大人が見守っているということが伝わるよう、きめ細やかに声かけをしながら、『見える補導・見せる補導』を実施することが非常に重要であると考えております。

本日は、浜通り少年サポートセンター長である柳橋 宏美（やなぎはし ひろみ）様に、「非行少年の現状や近年の補導のあり方」と題し記念講演をいただきますので、コロナ禍を経た後の補導活動のあり方など、今後の活動の一助としていただければと存じます。

皆様には引き続き、子どもたちの健やかな成長のために、深い愛情を持って補導活動に取り組んでいただき、子どもたちへの適切な御指導・御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、いわき市少年補導員連絡協議会のますますの御発展と、お集まりの皆様の御健勝、御活躍をお祈り申し上げます。挨拶といたします。

『大人が変われば、子どもも変わる』

(いわき市青少年育成市民会議)

市少年補導員制度発足60周年記念事業より

～各方部会集合写真～



平東方部



平西方部



小名浜方部



勿来方部



常磐方部



内郷方部



四倉・久之浜方部

令和6年度夏季における特別補導の様子

いわき市少年補導員各方部会では、市内各地で開催される行事等に合わせ、特別補導を実施しております。今年も暑い中、各方部の皆さんに活動いただきました。



平東方部 (8/6 七夕祭り)



小名浜方部 (8/3 花火大会)



勿来方部 (8/13 金山盆踊り)



平西方部 (8/8 いわきおどり)



内郷方部 (8/14・15 回転やぐら盆踊り)



常磐方部 (8/1 金魚つかみ大会)



四倉・久之浜方部 (8/26 朝のあいさつ運動)

『地域の子どもは、地域で見守り育てる』

(いわき市青少年育成市民会議)

◆発行◆

いわき市教育委員会事務局
生涯学習課

いわき市少年補導員
連絡協議会

◆連絡先◆

平少年センター Ⅰ 22-5431
小名浜少年センター Ⅰ 54-1890
勿来少年センター Ⅰ 63-3467
常磐少年センター Ⅰ 43-2305
内郷少年センター Ⅰ 26-2974
四倉少年センター Ⅰ 32-2920



第17回いわき市青少年育成大会

8月25日、文化センター大ホールにおいて「第17回いわき市青少年育成大会」が開催され、少年補導員や青少年育成市民会議などから約70人が参加しました。昨年に引き続き、少年の地域活動を積極的に支援するため、中学生1人、高校生5人のボランティアを受け入れての運営となりました。

意見発表では、小学生1人、中学生4人が、いじめをなくすためにできること、多様性を知ることの大切さ、地域活動の中で得た学びや気づきなどを力強く発表し、参加者は熱心に聞き入っていました。

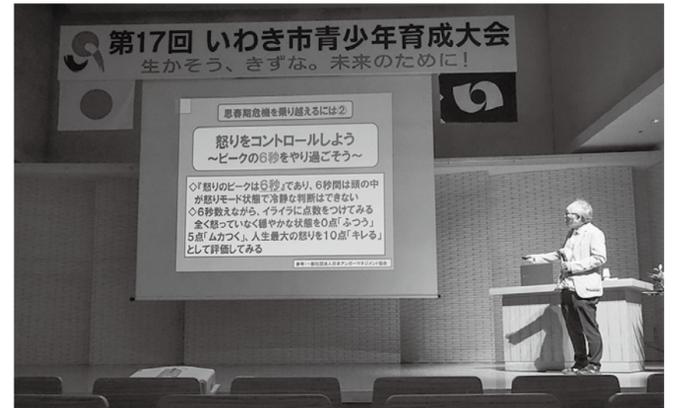
記念講演では、針生ヶ丘病院・公認心理師の大森洋亮氏に「困難な状況を克服するには～折れないこころを育てる～」と題し、苦しい局面に遭遇した際の心の持ち方、親子間でのコミュニケーション

ンについて、実例や実技を交えながら説明していただきました。

【意見発表者】

- ・藤木 亮成さん (小名浜西小) 「のびのびと生きていくために」
- ・鈴木 瑠奈さん (平第三中) 「『自分らしく』生きる」

- ・佐藤 佳亮さん (小川中) 「居心地のいい社会にするために」
- ・平 純伎さん (江名中) 「社会を明るくするために」
- ・櫻村 実優さん (錦中) 「一人一人がお手本で」



【記念講演：針生ヶ丘病院公認心理師 大森 洋亮 氏】

『見える補導・見せる補導』で、相互理解を深めよう

いわき市少年補導員連絡協議会 会長 榎良 幸広



補導員の皆さまには、地域の子どもたちの健全育成にご尽力いただき、感謝申し上げます。

補導活動における私たちの役割で大切なことは、地域社会の中で子どもたちとの信頼関係を築くことです。そのためには、私たちが日常的に子どもたちと接点を持ち、顔を合わせる機会を増やすことが重要です。いわゆる『見える

補導・見せる補導』が、その基盤となります。

コロナ禍が収束し、地域のイベントでも、子どもたちの姿を多く見かけるようになりました。その場で子どもたちに声をかけると、しっかりと応答してくれます。ちょっとした機会ですが、子どもたちは、私たち補導員を目にする事で「自分たちを見守って

れる大人がいる」という意識を持つのだと思います。同時に、私たちも彼らの言動や変化に気づくことができ、より適切な支援やアドバイスにつながると考えます。

多くの機会で子どもたちとの接点を増やし、相互理解を深めるとともに、地域全体で子どもたちを見守る環境づくりも大切です。私たち補導員が積極的に活動することで、地域の方々にもその姿勢が伝わり、ともに子どもたちを見守る意識が広がっていくことを期待しています。

- 1つ 親も子も、早寝、早起きして規則正しい生活につとめます。 4つ 親も子も、家事を分担し、役割を果たすようにつとめます。
- 2つ 親も子も、進んであいさつするようにつとめます。 5つ 親も子も、隣近所と仲良くし、社会参加につとめます。
- 3つ 親も子も、何でも話しあえるようにつとめます。 <家庭のちかい>

見守り活動をしながら

四倉・久之浜方面 補導員 安達 貴美子

私は月に一度、青パト車で巡回しながら補導をしています。そこは補導員同士の情報交換の場にもなっています。

私が補導員になった頃は、電車通学で遅刻をする学生を数人見かけましたが、今は一人もいません。金髪の学生も見かけません。学生が真面目になったのでしょうか。

私の家の前は登校班の集合場所なので朝、外に出ると、小学生が挨拶をしてくれます。夏休み明けの始業日には、荷物をたくさん抱えて登校する姿に、元気をいただいた気持ちになりました。

これからも声かけ・見守り活動を通して地域の子どもたちと関わっていききたいと思います。



少年補導員として

常磐方面 補導員 佐藤 純一

少年補導員を始めて1年が経ちました。補導員を始める前は「補導」という言葉から、取り締まりをイメージしておりましたが、主な活動は声かけによる子どもたちの健全育成と犯罪（非行）の未然防止です。

私は、主に夕方の通学路パトロールに参加しておりますが、冬季の下校時間は、想像以上に暗く、狭い道や死角も多く存在しております。子どもたちの補導だけではなく、保護という観点から見ても、不審者対策として私たちのパトロールは、大変意義のある活動であると感じております。

今後も補導員の先輩方をお手本として、地域の子どもたちが、安心・安全に生活できるように見守り

令和6年度『福島県青少年育成県民会議会長表彰要綱に基づく会長表彰』受賞者

【青少年指導者の部】 奥村 幸雄氏 (いわき市少年補導員常磐方面会)



街頭補導 活動レポート

活動を通して、大人と子どもの「きずな」づくりが出来ればと考えております。

補導員を続けて見えてきたこと

平西方面 補導員 野口 春恵

私は、補導員として活動して23年になります。随分と長く続けてきたことにびっくりしています。

震災後は車での補導が主になって、その後はコロナ禍もあり、なかなか歩く補導ができていませんでしたが、4月から徒歩補導が再開され、子どもたちに積極的に声かけする機会が増えました。8月の夕方の徒歩補導では、いわき駅前ペDESTリアンデッキに集まっていた中高生に「気をつけて帰ってね〜!」と声をかけると「さよなら!」と元気な声が返ってきて、私たちもうれしい気持ちになりました。

インターネット環境が急速に整備され、今の時代は対面よりもスマートフォンとかかわる時間が圧倒的に長いと思います。しかし、子どもたちの元気な声を聞いて、私も補導員として少しでも多くの子どもたちを見守っていければと考えるこの頃です。



少年補導員を始めて

内郷方面 補導員 佐川 ふみ代

私は昨年、息子が高校を卒業したのを機に少年補

導員を始めました。活動としては、月に一度の青パト車で巡回、回転やぐら盆踊り大会や早朝駅前での特別補導などを行っています。

夕方の時間帯に巡回すると、主に高校生の下校の時間と重なり、声かけをすると頭をさげてあいさつを返してくれます。今年回転やぐら盆踊り大会でも、小・中学生などに声をかけたら素直な返事が返ってきて、とてもあたたかい気持ちになりました。また、少年アドバイザーの方や先輩補導員の皆さんから様々な情報をいただき、勉強になっています。

これからも地域の子どもたちが安心して過ごせるように見守っていききたいと思います。

『さりげなく何気なく』

小名浜方面 補導員 大野 英城

巡回パトロール中、子どもたちは、私たちの存在になかなか気がつきません。おしゃべりしている子、一人で歩いている子、ふざけあっている子など、その様子は様々です。ところが、スピーカーから「こんにちは」とひとこと発するだけで、一気に注目を浴びます。そこで「車に気をつけるんだよ」「暑いから早く帰るんだよ」など、さりげなく声をかけると、元気な返事が返ってきます。

また、私はよく散歩がてら出会う子どもたちに声をかけています。「おはようございます」「こんにちは」何気ない挨拶でも、きちんと返事が返ってきます。小学生は向こうから、中学生はこちらから、声をかける傾向にあります。たまに声をかけて空振りする時もありますが、地域の子どもたちを見守る大人として、今後も声をかけていきたいと思っています。

クリスマスプレゼントにはゲームという方へ

平東方面 補導員 根本 浩一

もうすぐクリスマス。クリスマスといえばプレゼ

ントですね。今の子どもたちがプレゼントに欲しいものといえば、ゲームに関連するものが多いのではないのでしょうか？でも最近そのゲームでのやりとりをきっかけに子どもたちが性犯罪に巻き込まれる被害が相次いでいて、特に小学生の被害が増えているという記事を目にしました。今はオンラインゲームが主で、面識のない人と複数人で楽しむことも珍しくありません。もしその中に、子どもたちを狙った犯罪者が紛れていたとしても、気付くことはできるでしょうか。多くの小学生が利用するゲームが性被害の入り口になっているというのは、とても心配なことです。もしゲームをプレゼントする場合は、オンラインゲームの特性や危険性、安全な使い方などをぜひ話し合ってみてください。

「うえだ・ふれあい広場から」

勿来方面 補導員 三戸 進

「うえだ・ふれあい広場」は、植田駅舎内で、地域の皆様からご協力を頂き青少年の健全育成、高齢者の見守りなどの活動をしている民間の防犯ボランティア団体の活動拠点です。勿来駅前の「関の子広場」も同様です。

平成22年2月26日に開所してから14年が経ちますが、コロナ禍で、長い間活動中止に追い込まれたことが心から消えません。しかし、収束後は、活動も再開し、9月1日の第26回なこそ鮫川花火大会を見る為、駅から降りてくる浴衣姿の若い人たちを見ていると、この「うえだ・ふれあい広場」は、駅を利用する人たちにとっての安全安心の拠点になっていると感じます。これからも、この活動が継続できることを望んでいます。



令和6年度『福島県青少年育成県民会議会長表彰要綱に基づく会長表彰』受賞者

【青少年指導者の部】 山崎 雅弘氏 (いわき市少年補導員小名浜方面会)

● 事業紹介 (少年補導員一日体験教室)

少年補導員一日体験教室は、小・中学生の保護者を対象に街頭補導業務体験を通して、補導員の活動や青少年の行動実態を認識していただくとともに、少年補導員の新たな人材の発掘及び育成を図る事を目的に毎年開催しています。

(令和6年度：平西方面、令和7年度予定：平東方面)

令和5年度は、小名浜方面の保護者8人にご参加いただき、本市の少年補導員の概要や補導員の心得などを説明した後、補導車による巡回での見守りや商業施設など街頭での声かけを体験していただきました。



街頭補導を体験する参加者

フレッシュな補導員から一言

内郷方面 補導員 井上 恵子

知識も経験もない私に「少年補導員をやってみませんか？」と声をかけて頂き活動を始めて1年が経ちました。迷いはあったもののこの内郷で4人の子どもを育ててもらった恩返し、とってはおこがましいですが、少しでもお役にたちたいと思い引き受けました。

子どもたちが下校する中「何年生?」「今日部活は?」の声かけに足を止めて素直に話してくれる姿に癒しをもらっています。

今後ともよろしくお願いします。

街頭補導実施状況

令和5年度は、年間で912回、延べ1,625人の少年補導員が活動しました。指導件数は「自転車の二人乗り6人、無灯火9人」「その他23人(中学生のゲームセンター立入7人、自転車ノーヘルメット9人、道路の横切り1人、公共の場での男女の不適切行動6人)」でした。

また、街頭補導では犯罪や非行の未然防止に併せ、子どもたちの安全確保を目的として、不審者情報箇所周辺や通学路防犯危険箇所の見守り活動「見える補導・見せる補導」を実施しています。令和5年度は、不審者情報に関わる巡回を468回、通学路危険箇所の巡回を152回実施しました。今後も悪質な行為の抑止力となるよう継続した巡回を行っています。



● 補導日誌から (令和5年度)

- ・徒歩補導中に、高校生に声をかけ、自転車が無灯火になっている旨を伝えた。「気づかなかったので声をかけてもらって良かった」と言われた。
- ・県立高校入試の合格発表当日に、合格書類を持って学校へ向かう生徒を多数見かけた。声をかけると「うれしいです!!」と喜びの言葉が返ってきた。
- ・ゲームセンター二階でカートゲームをしている若い女性を見かけた。高校生かと思いをかけたが、29歳だと言われてしまった。
- ・下校中の中学生とともに、地下歩道を歩いた。「ここは夜になると暗くて少し怖い」と話してくれた。出口で気をつけて帰るよう見送った。
- ・夏季特別補導で除菌ティッシュを配布した。受け取りを拒否する人もいたが、高校生へ渡すととても喜んでくれた。



いわき市少年補導員募集中! ~地域の子どもたちを見守り育てる活動に参加しませんか~

気になった方はこちらへお気軽におかけください

☎0246-22-7558 (いわき市教育委員会事務局生涯学習課青少年係)